

# 長崎新聞

発行所  
長崎新聞社  
長崎市茂里町3-1 〒852-8601  
©長崎新聞社2017

3月9日(木) 先勝

(旧暦2月12日)

総合案内(095)844-2111  
報道部(095)846-9240  
広告部(095)844-4874  
事業部(095)844-5261

## 私たちの最期は

(7)

### 第8部 旅立ちの介護

松丸晃一郎(50)は携帯電話だけを握り締め、思わず涙をこぼしていた。2015年2月、橋本薫(67)との通話中のことだ。松丸はサービスタ付き高齢者向け住宅「銀木犀鎌ヶ谷」(千葉県鎌ヶ谷市)の所長を務めている。薫の母で、間もなく90歳を迎える田谷野きみが脳梗塞のため銀木犀鎌ヶ谷へ移ると聞いた。入居4年目になるきみとの思い出は尽きない。こんな形で突然別れるのは心残りだ。「もう一度だけチャンスをした

## 笑顔と拍手でお別れ

「銀木犀鎌ヶ谷」で門松づくりに参加した元気な頃の田谷野きみ  
=2014年、千葉県鎌ヶ谷市(銀木犀鎌ヶ谷提供)

きみが息を引き取ったのは15年10月20日。出棺の日、1階の談話室でお別れ会が開かれた。他の入居者に死亡を知らせない高齢者住宅もあるが、ここでは一緒に暮らしてきた住人と職員が集まって「ありがとだね」と花を手向ける。薫があいさつに立った。「母は楽しいこと、笑うことが大好きでした」。人気者だったきみの思い出話に花が咲く。みんな笑顔だ。最後は大きな拍手に包まれた。

こんな光景が定着した銀木犀鎌ヶ谷、実のところ開設当初、みとりに取り組むことになろうとはスタッフの誰も考えていなかった。

(敬称略)



「職性肺炎を起こす。次第に食が細くなっていた。銀木犀鎌ヶ谷では、みとりを希望する入居者が食べ物や水分を口から取れなくなったときは、できるだけ人工栄養

望する入居者が食べ物や水分を口から取れなくなったときは、できるだけ人工栄養